

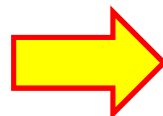
雨水浸透阻害行為

調整池容量計算システム (EXEL.ver)

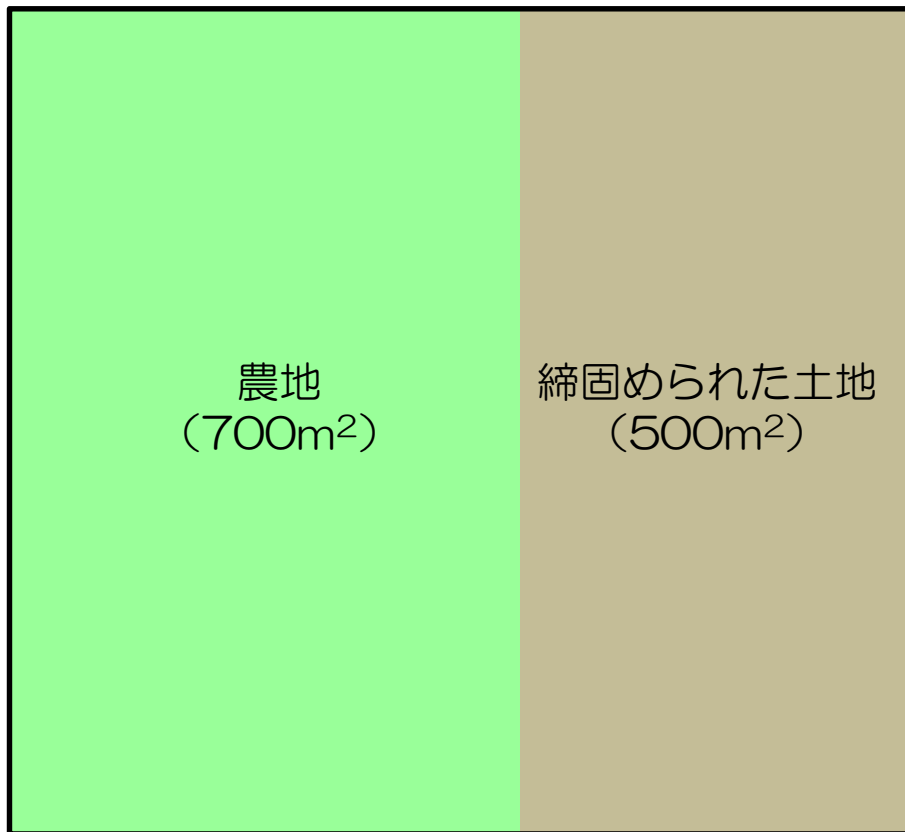
貯留施設 計算例

計算例 地下貯留施設で対応した場合(直接放流あり)

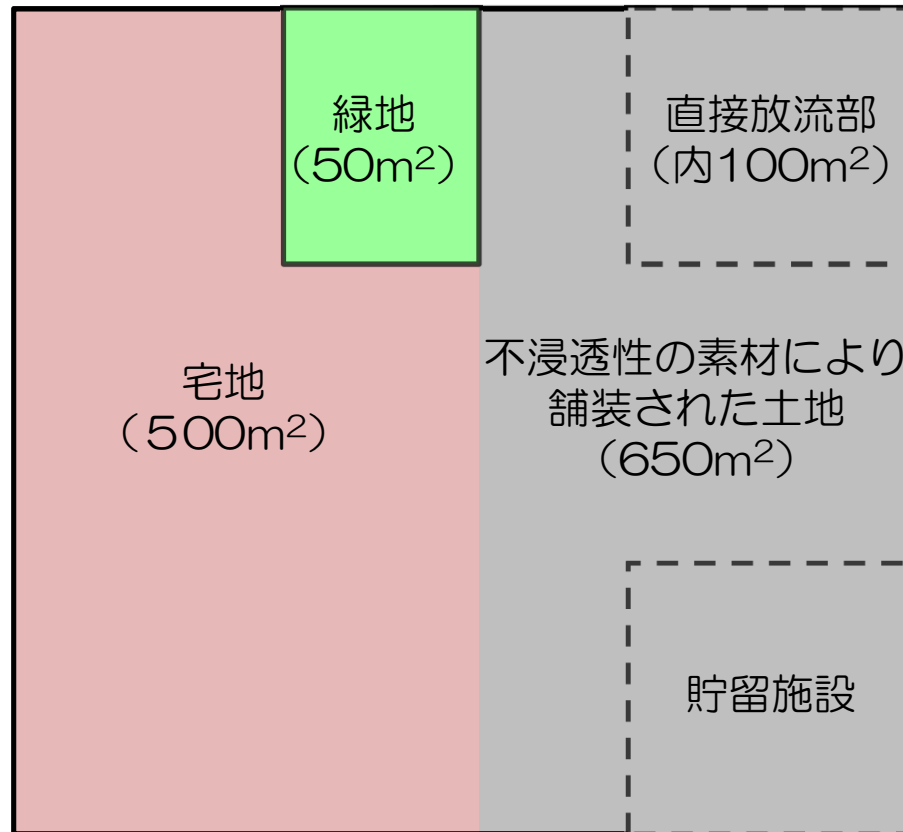
開発前(現況)



開発後(施設計画)



合計1,200m²



合計1,200m²
(雨水浸透阻害行為面積: 1150m²)

全体の流出係数の算定1

【様式A-1】

開発前と開発後の土地量面積を記入する。

■現況土地利用																					
区域No	宅地等													第2号関連		第3号関連		左記以外の土地			
	宅地	池沼	水路	ため池	道路			鉄道線			飛行場			コンクリート等の不浸透性の材料により覆われた土地(法面を除く)	コンクリート等の不浸透性の材料により覆われた法面	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うもの)	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うもの)	ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	山地	人工的に造成された植生に覆われた法面	林地、耕地、原野、その他これらに類する建設機械を用いて締め固められていない土地
					(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)		(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)		(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)									
						不浸透法面	植生法面		その他	不浸透法面		植生法面	その他								
1																					500
2																					50
3																					150
4																			500		
5																					
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500	0	0	700
小計2	0													0	500		700				
合計														1200							
■計画土地利用																					
区域No	宅地等													第2号関連		第3号関連		左記以外の土地			
	宅地	池沼	水路	ため池	道路			鉄道線			飛行場			コンクリート等の不浸透性の材料により覆われた土地(法面を除く)	コンクリート等の不浸透性の材料により覆われた法面	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うもの)	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うもの)	ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	山地	人工的に造成された植生に覆われた法面	林地、耕地、原野、その他これらに類する建設機械を用いて締め固められていない土地
					(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)		(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)		(法面を有しないものに限る)	(法面を有するものに限る)									
						不浸透法面	植生法面		その他	不浸透法面		植生法面	その他								
1	500																				50
2																					
3																					150
4																					500
5																					
小計	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
小計2	500													650	0		50				
合計														1200							

土地利用の面積に合わせて分けると確認が容易

一致していることを確認

全体の流出係数の算定2

【様式A-2】

様式A-2開発前と開発後の土地量面積を記入する。

①開発前の土地利用面積が表示される(自動)。

※様式A-1から転用

②開発後の土地利用面積を上段、中段、下段の該当する箇所に記入する。

- ・上段: 現況が1号及び2号関連
- ・中段: 現況が3号関連
- ・下段: 現況が1~3号関連以外

土地利用別面積集計表		エラーチェック⇒	OK		(様式A)			
区分	土地利用の形態の細区分	①現況土地利用面積(m ²)	②計画土地利用面積(m ²) 上段: 現況が1号及び2号関連 中段: 現況が3号関連 下段: 現況が1~3号関連以外	③雨水浸透阻害行為の該当面積(m ²) 1-2号関連: ②の中段+下段 3号関連: ②の下段	流出係数	行為前集水面積(ha)	行為後集水面積(ha)	
宅地等に該当する土地	宅地	0	500	500	0.900		0.0500	
	池沼	0			1.000			
	水路	0			1.000			
	ため池	0			1.000			
	道路(法面を有しないものに限る。)	①	②		0.900			
	道路(法面を有するものに限る。)	不浸透法面(流出係数=1.00)	0					
		植生法面(流出係数=0.40)	0					
		上記以外の土地(流出係数=0.90)	0					
	鉄道道路(法面を有しないものに限る。)	0			0.900			
	鉄道道路(法面を有するものに限る。)	不浸透法面(流出係数=1.00)	0					
		植生法面(流出係数=0.40)	0					
		上記以外の土地(流出係数=0.90)	0					
	飛行場(法面を有しないものに限る。)	0			0.900			
	飛行場(法面を有するものに限る。)	不浸透法面(流出係数=1.00)	0					
		植生法面(流出係数=0.40)	0					
上記以外の土地(流出係数=0.90)		0						
第2号関連	コンクリート等の不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く。)	0	500 150	650	0.950		0.0650	
	コンクリート等の不浸透性材料により覆われた法面	0			1.000			
第3号関連	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0			0.500			
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0			0.800			
その他	ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	500			0.500	0.0500		
掲げる土地以外の土地	山地	0				0.300		
	人工的に造成され植生に覆われた法面	0				0.400		
	林地、耕地、原野、その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	700	50		0.200	0.0700	0.0050	
合計		1200	1200	1150		0.1200	0.1200	
合成流出係数				1 上記面積が1,000㎡以上の場合、許可申請対象		0.325	0.898	

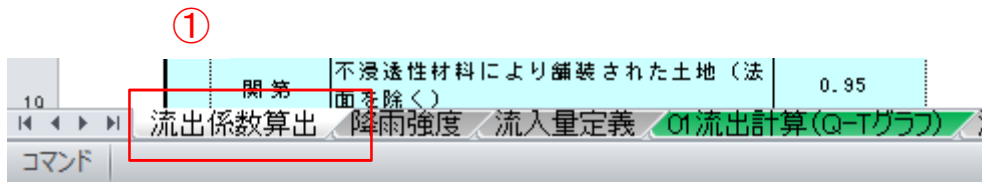
確認

全体の流出係数の算定3

シート「流出係数算出」

開発前後の土地利用面積を記入し、行為前・行為後の流出係数を求める。

- ①調整池容量計算システム.XLSMを開き、シート「流出係数算出」を開く。

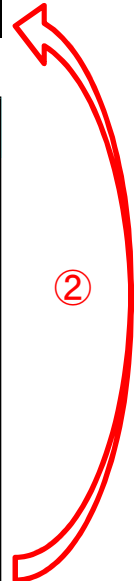


- ②様式A-2に表示された面積(右側2列)を入力し、流出係数を求める。
※単位に注意

流出係数算定結果	行為前	行為後
	0.325	0.898

雨水浸透阻害行為の技術基準として設定する流出係数

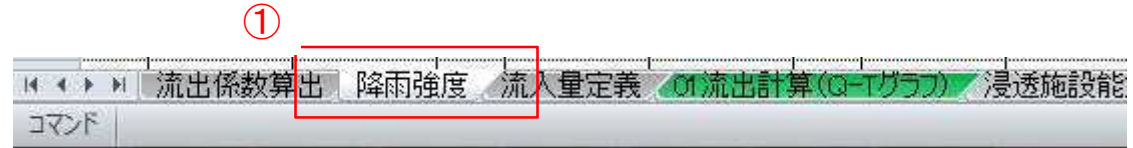
区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為后面積 (ha)
計		—	0.1200	0.1200
宅地等に該当する土地	第1号関連			
	宅地	0.90		0.0500
	池沼	1.00		
	水路	1.00		
	ため池	1.00		
	道路(法面を有しないもの)	0.90		
	道路(法面を有するもの)			
	鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
	鉄道線路(法面を有するもの)			
	飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
飛行場(法面を有するもの)				
宅地等以外の土地	関第2連号			
	不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		0.0650
	不浸透性材料により覆われた法面	1.00		
	関第3連号			
	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.50		
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.80		
	ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	0.50	0.0500	
上記第1号から第3号に掲げる土地以外の土地				
山地	0.30			
人工的に造成され植生に覆われた法面	0.40			
林地、耕地、原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	0.20	0.0700	0.0050	
その他				



降雨強度の設定

シート「降雨強度」

巴川の基準降雨を入力する。



【巴川の基準降雨】

降雨波形	中央集中型
生起確率	10年に1度
24時間総雨量	261.5mm
最大降雨強度(1時間)	68.7mm/h
最大降雨強度(10分間)	122.6mm/h

②

時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)	時	分	降雨量 (mm/h)
0	0-10	2.3	6	0-10	6.0	12	0-10	80.1	18	0-10	5.7
	10-20	2.3		10-20	6.2		10-20	54.4		10-20	5.5
	20-30	2.4		20-30	6.4		20-30	43.2		20-30	5.4
	30-40	2.4		30-40	6.6		30-40	36.6		30-40	5.2
	40-50	2.5		40-50	6.8		40-50	32.1		40-50	5.1
	50-60	2.6		50-60	7.0		50-60	28.8		50-60	4.9
1	0-10	2.6	7	0-10	7.2	13	0-10	23.9	19	0-10	4.8
	10-20	2.7		10-20	7.5		10-20	21.7		10-20	4.7
	20-30	2.8		20-30	7.8		20-30	19.9		20-30	4.5
	30-40	2.9		30-40	8.1		30-40	18.4		30-40	4.4
	40-50	2.9		40-50	8.4		40-50	17.1		40-50	4.3
	50-60	3.0		50-60	8.7		50-60	16.0		50-60	4.2
2	0-10	3.1	8	0-10	9.0	14	0-10	15.0	20	0-10	4.1
	10-20	3.2		10-20	9.4		10-20	14.1		10-20	4.0
	20-30	3.2		20-30	9.8		20-30	13.4		20-30	3.8
	30-40	3.3		30-40	10.2		30-40	12.7		30-40	3.7
	40-50	3.4		40-50	10.7		40-50	12.0		40-50	3.7
	50-60	3.5		50-60	11.2		50-60	11.5		50-60	3.6
3	0-10	3.6	9	0-10	11.7	15	0-10	10.9	21	0-10	3.5
	10-20	3.7		10-20	12.3		10-20	10.4		10-20	3.4
	20-30	3.8		20-30	13.0		20-30	10.0		20-30	3.3
	30-40	3.9		30-40	13.7		30-40	9.6		30-40	3.2
	40-50	4.0		40-50	14.6		40-50	9.2		40-50	3.1
	50-60	4.1		50-60	15.5		50-60	8.9		50-60	3.0
4	0-10	4.2	10	0-10	16.5	16	0-10	8.5	22	0-10	3.0
	10-20	4.3		10-20	17.7		10-20	8.2		10-20	2.9
	20-30	4.5		20-30	19.1		20-30	7.9		20-30	2.8
	30-40	4.6		30-40	20.8		30-40	7.6		30-40	2.7
	40-50	4.7		40-50	22.8		40-50	7.4		40-50	2.7
	50-60	4.9		50-60	25.2		50-60	7.1		50-60	2.6
5	0-10	5.0	11	0-10	30.3	17	0-10	6.9	23	0-10	2.5
	10-20	5.1		10-20	34.2		10-20	6.7		10-20	2.5
	20-30	5.3		20-30	39.6		20-30	6.5		20-30	2.4
	30-40	5.4		30-40	47.9		30-40	6.3		30-40	2.3
	40-50	5.6		40-50	63.9		40-50	6.1		40-50	2.3
	50-60	5.8		50-60	122.6		50-60	5.9		50-60	2.2

- ①シート「降雨強度」を開く。
- ②市HPに掲載している「基準降雨」を入力する。

※システムの数値は初期値で設定されているため、降雨強度は必ず更新する。

【河川課HP】

「巴川流域が特定都市河川流域に指定されました」



「対策工事の規模や~技術基準についてはこちら」



「施設の設計を支援するもの」

全体の流出量の計算1

シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」

直接放流部の前後の全体の流出量を求める。

- ①シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」を開く。
- ②「流出係数」を押して、流出係数を算出する。

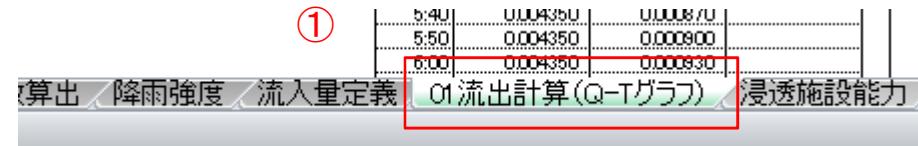
※表示される流出係数が、様式A-2の流出係数と一致していることを確認

- ③「計算実行」を押して、行為の前後のピーク流入量を自動計算する。
- ④計算結果から行為前のピーク流入量をメモしておく。

時刻	行為前流入量	行為後流入量	降雨強度
0:00	0.000000	0.000000	
0:10	0.000250	0.000690	2.3000
0:20	0.000250	0.000690	2.3000

11:00	0.002730	0.007540	25.2000
11:10	0.003280	0.009070	30.3000
11:20	0.003710	0.010240	34.2000
11:30	0.004290	0.011850	39.6000
11:40	0.005190	0.014340	47.9000
11:50	0.006920	0.019130	63.9000
12:00	0.013280	0.036700	122.6000
12:10	0.008680	0.023980	80.1000
12:20	0.005890	0.016280	54.4000
12:30	0.004680	0.012930	43.2000
12:40	0.003970	0.010960	36.6000
12:50	0.003480	0.009610	32.1000
13:00	0.003120	0.008620	28.8000

④



流出計算条件

流出計算の実行

行為面積 ha

降雨量
※「降雨強度」シートに基準降雨を入力してください。(都道府県知事等により公示されている「基準降雨」の値に変更してください。)

流出係数

行為前	<input type="text" value="0.325"/>	流出係数
行為後	<input type="text" value="0.898"/>	

※「流出係数算出」シートで算出した値が入力されていますが、必要に応じて計算結果に基づき変更することができます。

流出計算結果の指定

※「流入量定義」シートに計算された流出計算結果(行為後)を入力してください。

許容放流量 m³/s

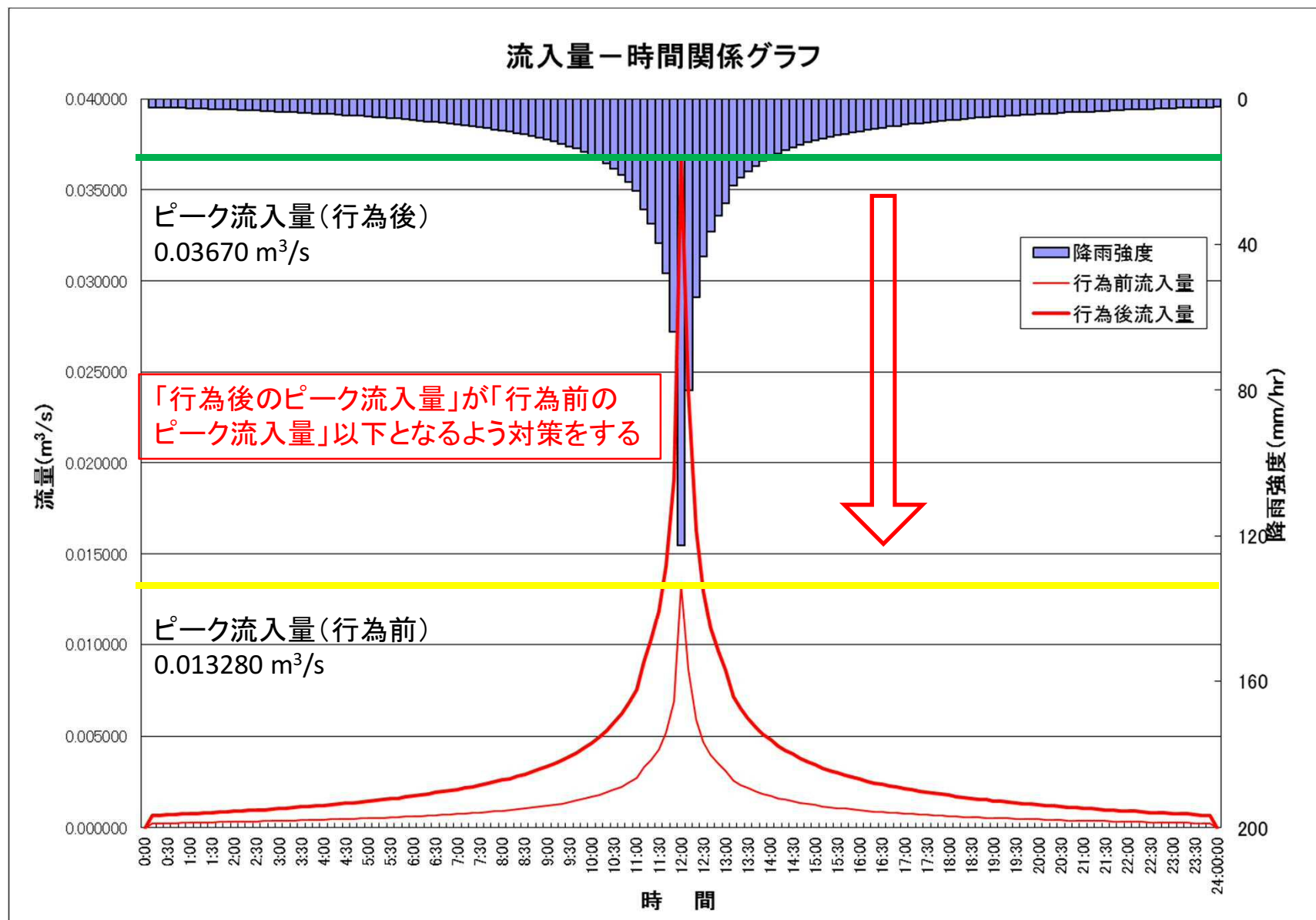
計算実行

②

③

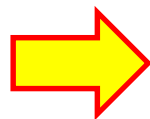
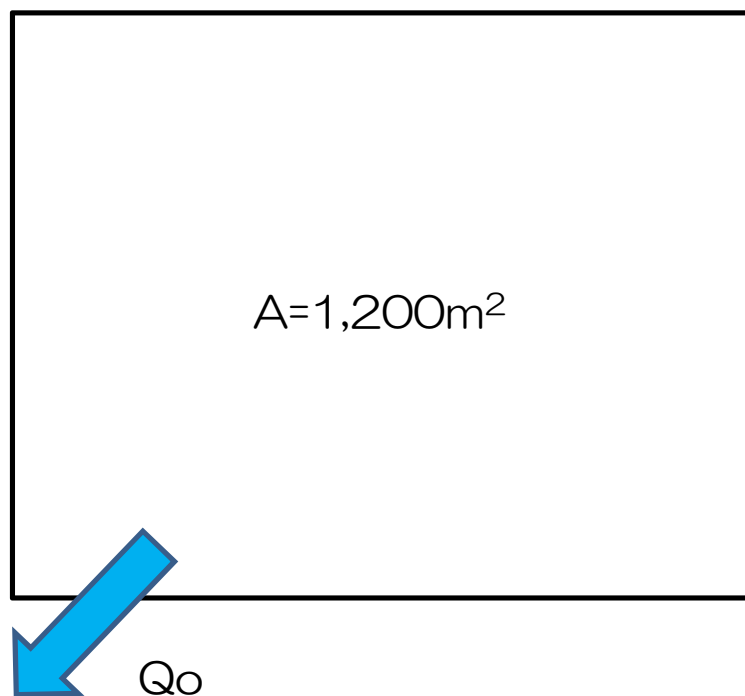
全体の流出量の計算2

ハイレート・ハイドログラフ

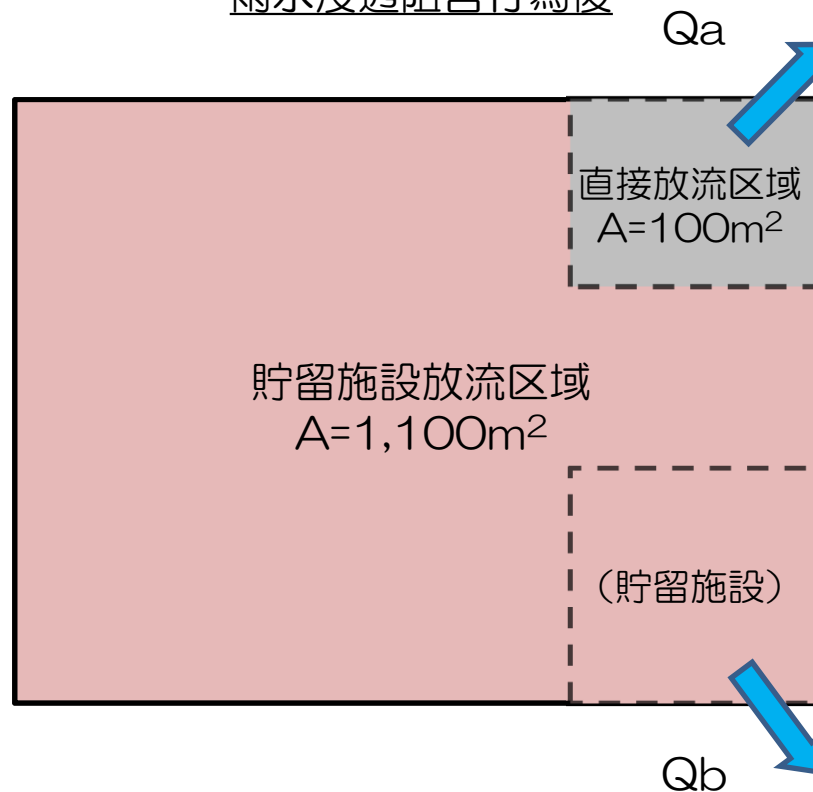


排水区域模式図

雨水浸透阻害行為前



雨水浸透阻害行為後



- Q_0 : 流出雨水量の最大値
- Q_a : 直接放流の最大値
- Q_b : 貯留施設からの放流量の最大値

$$Q_a + Q_b \leq Q_0$$

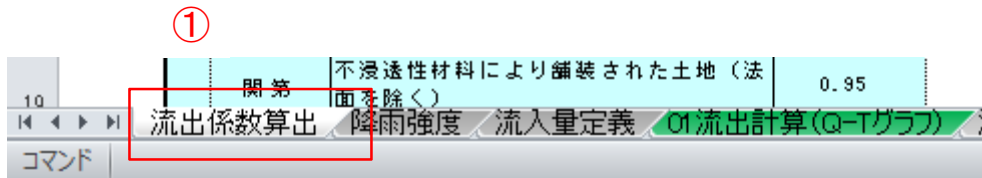
となるように、地下貯留施設の計画をする。

直接放流区域の流出係数の算定1

シート「流出係数算出」

開発後に直接放流となる区域の土地利用面積を記入し、行為前・行為後の流出係数を求める。

①シート「流出係数算出」を開く。



②面積(単位に注意)を入力し、流出係数を求める。

※直接放流となる区域を対象
 ※様式A-1, A-2を活用して作成

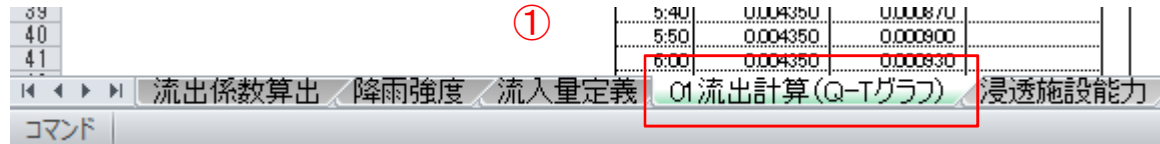
		流出係数算定結果		行為前	行為後
				0.500	0.950
雨水浸透阻害行為の技術基準として設定する流出係数					
区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為后面積 (ha)	
計		-	0.0100	0.0100	
宅地等に該当する土地	第1号関連	宅地	0.90		
		池沼	1.00		
		水路	1.00		
		ため池	1.00		
		道路(法面を有しないもの)	0.90		
		道路(法面を有するもの)			
		鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
		鉄道線路(法面を有するもの)			
		飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
		飛行場(法面を有するもの)			
宅地等以外の土地	関第2連号	不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		0.0100
		不浸透性材料により覆われた法面	1.00		
	関第3連号	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.50		
		運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.80		
		ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	0.50	0.0100	
	上記第1号から第3号に掲げる土地以外の土地	山地	0.30		
人工的に造成され植生に覆われた法面		0.40			
林地、耕地、原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地		0.20			
その他					



直接放流部の流出量の計算1

シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」

直接放流区域の流出量を求める。



- ①シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」を開く。
- ②「流出係数」を押して、流出係数を算出する。

※行為面積が直接放流区域の面積になっているか確認
 ※表示される流出係数が、様式A-2の流出係数と一致していることを確認

- ③「計算実行」を押して、直接放流区域のピーク流入量を求める。
- ④計算結果から行為後のピーク流入量をメモしておく。

時刻	行為前流入量	行為後流入量	降雨強度
0:00	0.000000	0.000000	
0:10	0.000030	0.000060	2.3000
0:20	0.000030	0.000060	2.3000
11:00	0.000350	0.000660	25.2000
11:10	0.000420	0.000800	30.3000
11:20	0.000480	0.000900	34.2000
11:30	0.000550	0.001040	39.6000
11:40	0.000670	0.001260	47.9000
11:50	0.000890	0.001690	63.9000
12:00	0.001700	0.003240	122.6000
12:10	0.001110	0.002110	80.1000
12:20	0.000760	0.001440	54.4000
12:30	0.000600	0.001140	43.2000
12:40	0.000510	0.000970	36.6000
12:50	0.000450	0.000850	32.1000
13:00	0.000400	0.000760	28.8000

④

流出計算条件

流出計算の実行

行為面積 ha

降雨量
 ※「降雨強度」シートに基準降雨を入力してください。(都道府県知事等により公示されている「基準降雨」の値に変更してください。)

流出係数

行為前	<input type="text" value="0.500"/>	流出係数
行為後	<input type="text" value="0.950"/>	

※「流出係数算出」シートで算出した諸元が入力されていますが、必要に応じて申請図書記載値に書き直すことができます。

流出計算結果の指定

※「流入量定義」シートに計算された流出計算結果(行為後)を入力してください。

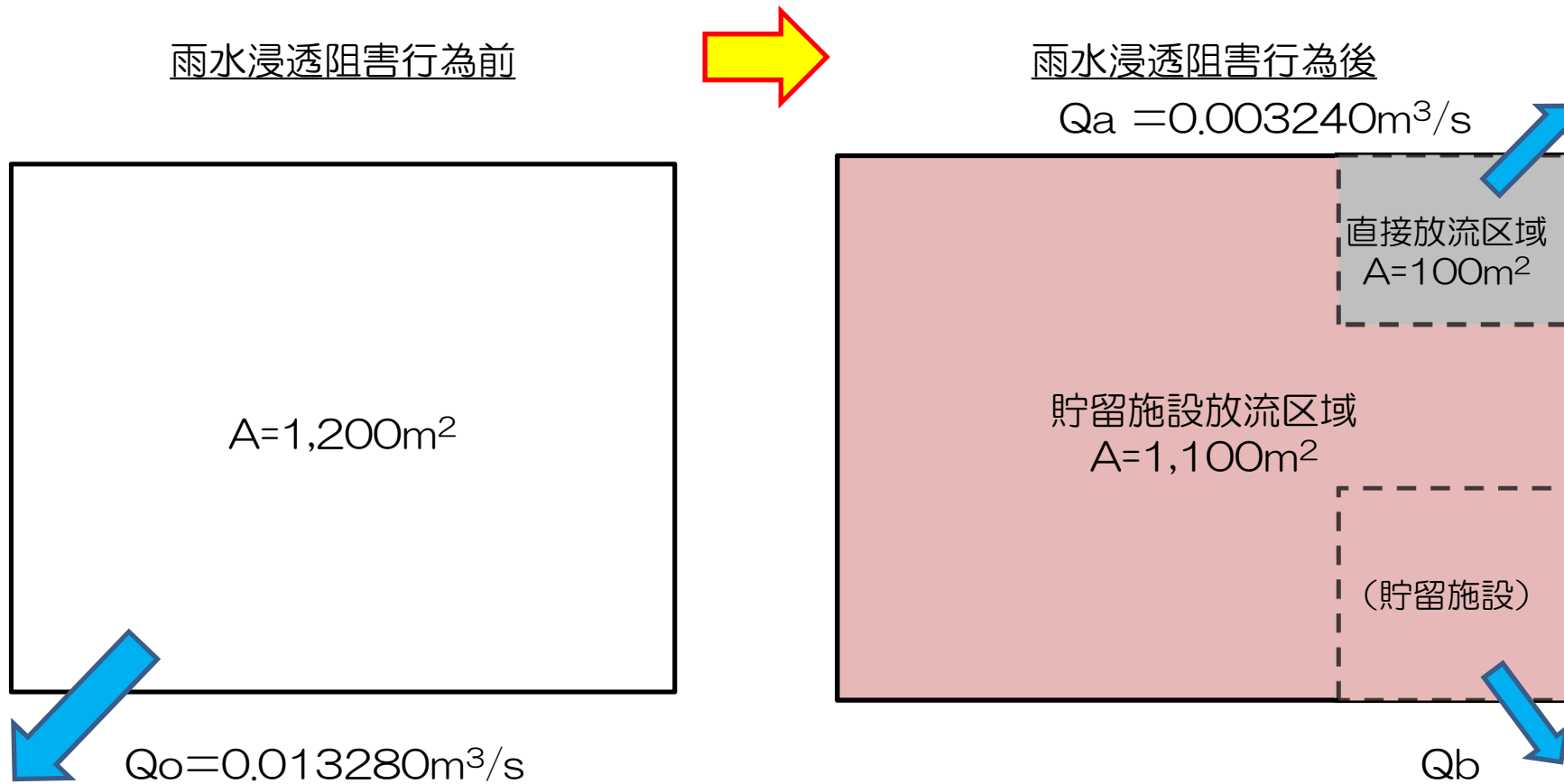
許容放流量 m³/s

計算実行

②

③

排水区域模式図



Q_o : 流出雨水量の最大値
 Q_a : 直接放流の最大値
 Q_b : 貯留施設からの放流量の最大値

$$Q_a + Q_b \leq Q_o$$

$$Q_b \leq Q_o - Q_a = 0.013280 - 0.003240 = 0.01004$$

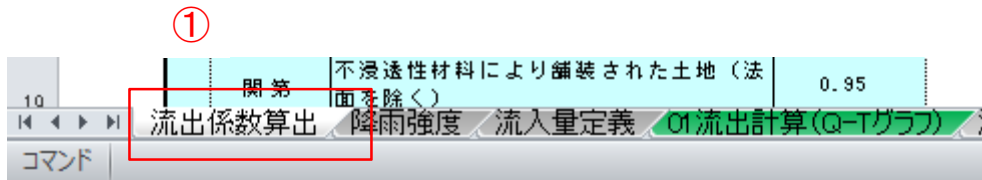
$Q_b \leq 0.010040\text{m}^3/\text{s}$ となるような貯留施設の計画をする

貯留施設へ流入する区域の流出係数の算定

シート「流出係数算出」

貯留施設へ流入する区域の土地利用面積を記入し、行為前・行為後の流出係数を求める。

①シート「流出係数算出」を開く。



②面積(単位に注意)を入力し、流出係数を求める。

※直接放流区域を除いた区域を対象
 ※様式A-1, A-2を活用して作成

流出係数算定結果			行為前	行為後
			0.309	0.893
雨水浸透阻害行為の技術基準として設定する流出係数				
区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為后面積 (ha)
計		—	0.1100	0.1100
宅地等に該当する土地	第1号関連	宅地	0.90	0.0500
		池沼	1.00	
		水路	1.00	
		ため池	1.00	
		道路(法面を有しないもの)	0.90	
		道路(法面を有するもの)		
		鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90	
		鉄道線路(法面を有するもの)		
		飛行場(法面を有しないもの)	0.90	
		飛行場(法面を有するもの)		
関第2連号	不浸透性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		0.0550
	不浸透性材料により覆われた法面	1.00		
宅地等以外の土地	関第3連号	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.50	
		運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る)	0.80	
		ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	0.50	0.0400
		上記第1号から第3号に掲げる土地以外の土地		
	山地	0.30		
	人工的に造成され植生に覆われた法面	0.40		
	林地、耕地、原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	0.20	0.0700	0.0050
その他				



貯留施設への流入量の計算1

シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」

① 計算結果の行為後流入量をコピーする。

シート「流入量定義」

- ② シート「流入量定義」に移動。
- ③ 行為後の流入量を入力する

流出計算条件

● 流出計算の実行

行為面積 ha

降雨量

※「降雨強度」シートに基準降雨を入力してください。(都道府県知事等により公示されている「基準降雨」の値を参照してください。)

	A	B	C	D
1	※流出計算を実行する場合、記入する必要はあり			
2	時刻	行為後流入量		
3	0:00	0.000000		
4	0:10	0.000630		
5	0:20	0.000630		
6	0:30	0.000650		
7	0:40	0.000650		
8	0:50	0.000680		
9	1:00	0.000710		
10	1:10	0.000710		
11	1:20	0.000740		
12	1:30	0.000760		
13	1:40	0.000790		
14	1:50	0.000790		
15	2:00	0.000820		
16	2:10	0.000850		
17	2:20	0.000870		
18	2:30	0.000870		
19	2:40	0.000900		
20	2:50	0.000930		
21	3:00	0.000960		
22	3:10	0.000980		
23	3:20	0.001010		
24	3:30	0.001040		
25	3:40	0.001060		
26	3:50	0.001090		
27	4:00	0.001120		

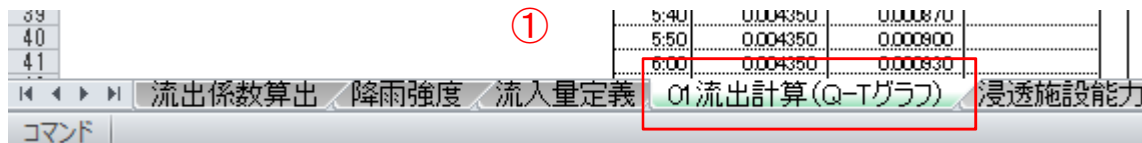
時刻	行為前流入量	行為後流入量	降雨強度
0:00	0.000000	0.000000	
0:10	0.000220	0.000630	2.3000
0:20	0.000220	0.000630	2.3000
0:30	0.000230	0.000650	2.4000
0:40	0.000230	0.000650	2.4000
0:50	0.000240	0.000680	2.5000
1:00	0.000250	0.000710	2.6000
1:10	0.000250	0.000710	2.6000
1:20	0.000250	0.000740	2.7000
1:30	0.000260	0.000760	2.8000
1:40	0.000270	0.000790	2.9000
1:50	0.000270	0.000790	2.9000
2:00	0.000280	0.000820	3.0000
2:10	0.000290	0.000850	3.1000
2:20	0.000300	0.000870	3.2000
2:30	0.000300	0.000870	3.2000
2:40	0.000310	0.000900	3.3000
2:50	0.000320	0.000930	3.4000
3:00	0.000330	0.000960	3.5000
3:10	0.000340	0.000980	3.6000
3:20	0.000350	0.001010	3.7000
3:30	0.000360	0.001040	3.8000
3:40	0.000370	0.001060	3.9000
3:50	0.000380	0.001090	4.0000
4:00	0.000390	0.001120	4.1000
4:10	0.000400	0.001150	4.2000
4:20	0.000410	0.001170	4.3000
4:30	0.000420	0.001200	4.5000
4:40	0.000430	0.001260	4.6000
4:50	0.000440	0.001280	4.7000
5:00	0.000460	0.001340	4.9000
5:10	0.000470	0.001360	5.0000
5:20	0.000480	0.001390	5.1000
5:30	0.000500	0.001450	5.3000
5:40	0.000510	0.001470	5.4000
5:50	0.000530	0.001530	5.6000
6:00	0.000550	0.001580	5.8000

量定義 01 流出計算(Q-Tグラフ) 浸透施設

貯留施設への流入量の計算2 ～ 浸透能力の算出

シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」

流出計算結果を指定し、ピーク流入量を計算する。



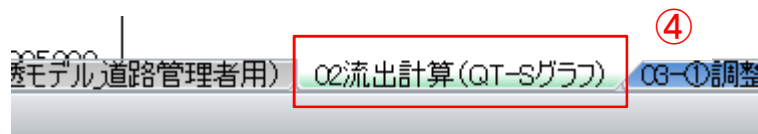
- ①シート「01流出計算(Q-Tグラフ)」を開く。
- ②算出した「許容放流量」を入力する

※「許容放流量」=「行為前_全体区域のピーク流出量」-「行為後_直接放流区域のピーク流出量」

- ③「計算実行」を押して、ピーク流入量を求める。

シート「02流出計算(QT-Sグラフ)」

- ④⑤シート「02流出計算(QT-Sグラフ)」を開き、計算実行。



今回は浸透施設を設置しないため、浸透考慮前後のピーク流量は変わらない

流出計算条件

流出計算の実行

行為面積 ha

降雨量
※「降雨強度」シートに基準降雨を入力してください。(都道府県知事等により公示されている「基準降雨」の値に変更してください。)

流出係数

行為前	<input type="text" value="0.309"/>	流出係数
行為後	<input type="text" value="0.893"/>	

※「流出係数算出」シートで算出した諸元が入力されていますが、必要に応じて申請図書記載値に書き換えることができます。

流出計算結果の指定

※「流入量定義」シートに計算された流出計算結果(行為後)を入力してください。

許容放流量 m³/s

計算実行

⑤

流出計算条件

浸透施設なし

浸透施設あり
※「浸透施設能力」シートに浸透施設諸元を入力してください。

浸透施設あり
(貯留浸透モデル_道路管理者用)
※「浸透施設能力(貯留浸透モデル_道路管理者用)」シートに浸透施設諸元を入力してください。

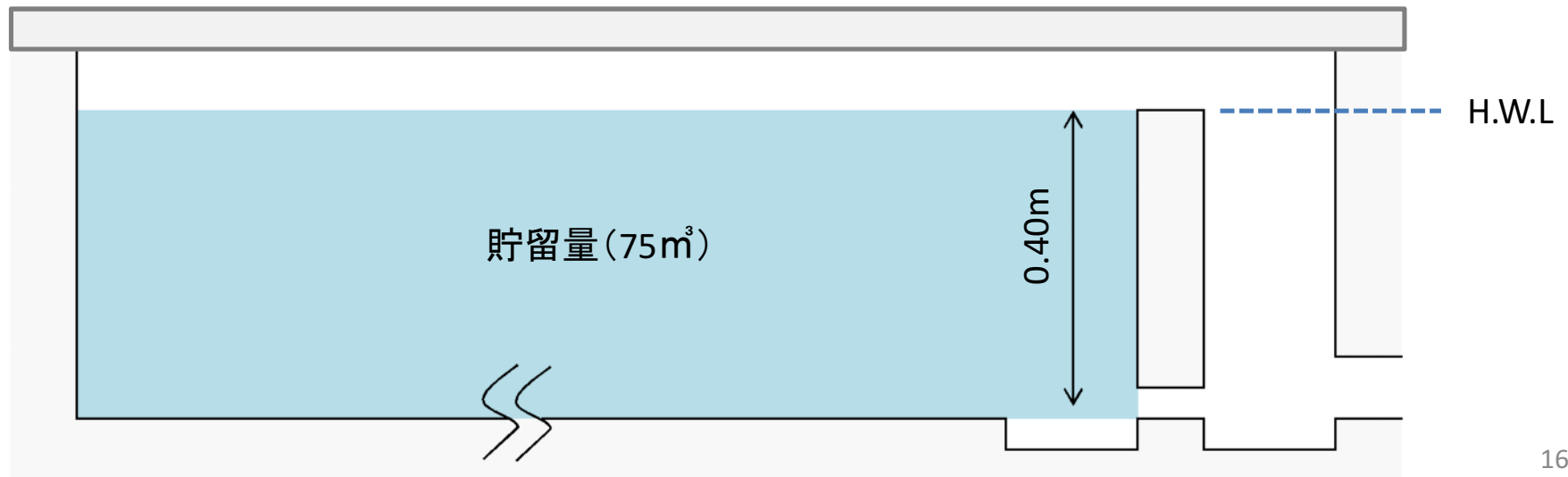
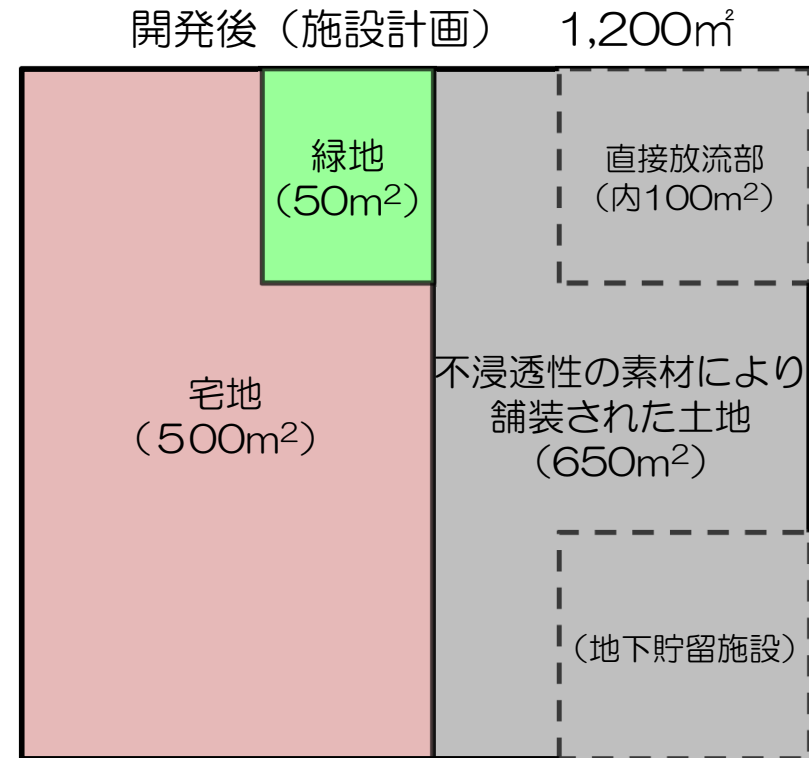
計算実行 / 再設定

②

③

貯留施設の検討

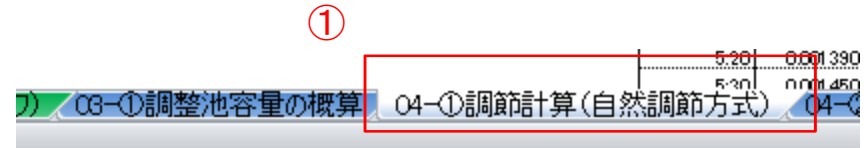
地下貯留施設を検討



調整池容量の計算

シート「04-①調節計算(自然調節方式)」

- ①シート「04-①調節計算(自然調節方式)」を開く。
- ②調整池の構造を入力する。
- ③「計算実行」を押す。



入力条件		
設定調整池諸元		
水深-容量		
No	水深H(m)	容量V(m ³)
1	0.000	0.00
2	0.400	75.00
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

放流口形状 (口径)	
<input checked="" type="radio"/> 円	直径 <input type="text" value="0.094"/> m
<input type="radio"/> 矩形	高さ <input type="text" value=""/> m 幅 <input type="text" value=""/> m
(管底位置)	池底高から <input type="text" value="0"/> m

行為後流入量	
行為後ピーク流入量 (浸透考慮後)	<input type="text" value="0.033450"/> m ³ /s
許容放流量 (行為前ピーク流入量)	<input type="text" value="0.010040"/> m ³ /s

③ **計算実行**

④ **計算結果**

総合評価	<input type="text" value="O.K"/>
放流量評価	<input type="text" value="許容放流量以下"/>
池の容量不足	<input type="text" value="無"/>
最大放流量	<input type="text" value="0.010009"/> m ³ /s
池内最大水深	<input type="text" value="0.342"/> m
池内最大ボリューム	<input type="text" value="64.09"/> m ³

- ④総合評価に「O.K」が出たら完了。
- ⑤許可申請図書の作成を押し、計算結果を出力する。

※既存様式「【様式】許可申請図書.XLS」の保存場所を入力

許可申請図書の作成

■【様式】許可申請図書の保存場所
C:\Users\414662\Desktop\【様式】許可申請図書.xls

⑤ **許可申請図書の作成**

ハイドログラフ

